

平成28年度第1回定例会

日 時： 平成28年5月17日（火）午後2時から午後3時18分まで

場 所： 図書館本館 講座室

出席者： （図書館協議会委員）会長、副会長、委員4名

欠席： 委員1名

（事務局）図書館長、サービス係長、子ども読書支援係長、地域資料係長、
総務係長、担当主査、担当職員2名

会長： 本日は委員1名より欠席の連絡が入っている。委員6名が出席しているため、多摩市図書館協議会規則第4条により平成28年度多摩市図書館協議会第1回定例会を開催する。事務局より配布資料の確認をお願いする。

（事務局配布資料の確認）（4月1日付人事異動者の紹介）

会長： 本日の議題の前に報告を事務局よりお願いしたい。

事務局： 報告案件1「平成28年度蔵書点検のための図書館休館について」資料1-1をご覧ください。例年この時期に行っている蔵書点検だが、書架の利用や貸出返却の中で図書が目録上の表示と違う場所に置かれることがあり、それらを補正するため今年も蔵書点検を行う。日程については資料の表のとおり。全館一斉に休館するのではなく、土日は開館し、平日の5日間で1～2館ずつ特別整理休館を設定して蔵書点検作業をする。利用者への周知は、たま広報5月20日号、図書館のホームページ、館内のちらし等で案内をしている。1点目の報告については以上。

会長： 蔵書点検について何か質問はあるか。ICタグは入っていないのか。

事務局： まだ入れていない。

会長： ICタグを入れると蔵書点検作業が短縮されると聞いているので、今後導入することも検討してほしい。ほかになければ2点目の報告案件をお願いしたい。

事務局： 平成28年度文部科学大臣表彰について。内容は子どもの読書活動において優秀な実践をされた団体ということで、多摩市の「なかよし文庫」が表彰を受けたので報告したい。詳細については子ども読書支援係長が説明する。

事務局： 資料1-2をご覧ください。本表彰は、文部科学省が平成14年度から実施しているもので、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を行っている学校、図書館、団体、及び個人に対して毎年表彰を行うもの。平成28年度は4月8日に文科省から発表があり、諏訪、永山地区を拠点として44年に亘り地域文庫活動を続けている「なかよし文庫」が、東京都の推薦を経て被表彰者となった。

また、4月23日「子ども読書の日」に、表彰式が国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた。資料の写真は、代表者が表彰状を受け取られた際の

もの。5月9日には教育長、教育部長への報告をしている。

2に「なかよし文庫」のこれまでの歩みを記載させていただいたので読ませていただく。『昭和47年に、多摩市立南永山小学校の「良い本を読む会」から発展して発足した本団体は、読書環境が整っていなかった当時の多摩ニュータウンで、本の貸出活動を主に行う「地域文庫」として活動を開始した。その後、読み聞かせ、本や図書館等についての学習会などにも積極的に取り組み、諏訪、永山地区の図書館建設に向けての活動にも参加した。昭和54年に諏訪図書館が開館したことから、本の貸出活動を終了し、その後は親子読書会、作者の講演会等の実施を行い、昭和56年に多摩市文庫連絡協議会が発足してからは、一員として活動もしている。近年は、児童館、図書館での読み聞かせに力を入れており、多摩市立図書館関係では永山図書館開館時から定例の読み聞かせを始めた。現在も継続しており、発足から44年に亘る本団体の活動は、諏訪、永山地区のみならず多摩市全体の子どもの読書活動の普及・向上に大きく寄与している。』以上。

会長： 表彰された「なかよし文庫」に所属されている委員から一言どうぞ。

委員： 私は途中から参加しているため、まだ20年ほどだが、先人の方々が一生懸命されてきた活動をこれからも続けていけたらと思っている。文庫活動があるということをご皆さんに周知していただき、応援いただけると有難い。

会長： 地域の読書活動を支えていただいている貴重な活動が表彰されたことはよかった。このことは新聞等で取り上げられてはいないのか。

事務局： 新聞には出ていないが、タウンニュースの5月12日号に写真とともに掲載されている。

会長： では、報告3点目について事務局より願います。

事務局： 「第8回子ども読書まつり《ほんともフェスタ》」が今年の2月末から3月末まで行われた。その内容について子ども読書支援係長から報告させていただく。

事務局： 資料1-3をご覧ください。本事業は、子どもの読書活動の推進について、広く一般市民、児童、生徒等に普及、啓発することを目的に、毎年3月に実施しているイベント。また、近年は各学校長の理解、学校図書館司書等の協力を得て、学校図書館との連携に特に力を入れている。今回は2月の最終日曜日から3月の最終日曜日までを開催期間として実施した。

内容構成、主なイベントは、オープニングおはなし会、展示、講演会、エンディングおはなし会で、この形態は前年度と同様。特に昨年も来場者が多かったグリナード永山会場は、今回も多くの方に見ていただくことができた。資料3ページの6に来場者数をまとめたものを載せた。グリナード永山会場は開催日を減らしたが、3千人を超える方に見ていただくことができた。また、3ページの4広報に書いたが、多摩テレビ、タウンニュースの2社からPR協力の申し出があった。また、5にあるように報道機関からの取材申込みがあり、3月6日号の東京新聞朝刊の地域面にグリナード永山展示会場の様子についての記事が掲載され

た。

資料4ページは平成26年度との比較。形態は同じだが、前年度の内容に工夫を加えるようにして臨んだ。

展示の際には会場での配付物とアンケートの充実に努め、展示物の見栄えについても気を配った。また、学校の展示物も素晴らしいものが多く、アンケートにもお褒めの言葉をいただいた。配付物は7ページから14ページのもので、ご自宅でもご覧いただけたのではと思う。また展示会場のアンケートは、従来のアンケートに加え「学校へのメッセージ」箱を設置し、投函のあった回答用紙は直接該当の学校図書館へ送付した。

講演会については、読書の時間や関心が徐々に減少する小学校高学年からティーンズを対象としたものにした。資料5ページの下の写真がその時の様子。今回は絵本画家・漫画家・イラストレーターであり市民でもある講師にお願いし、講演のほかにワークショップも行っていただいた。

次の第9回子ども読書まつりについては、すでに4月21日の市民連絡会、5月13日の学校連絡会で協力依頼をさせていただいたところ。

資料の後半にはアンケートの集計結果とそれに対する当係のコメントをつけているので、ご覧いただければと思う。説明は以上。

会長： かなり盛況であったとのこと。学校も係わっているようだが、学校にもインパクトのあるものなのか。

委員： こちらに参加させてもらい、励みや刺激になっていると感じる。

会長： 学校では主に学校司書が係わっているのか。

委員： 当校の場合は図書館司書と図書ボランティアという団体が中心となり、図書委員会と一緒に活動をしている。

会長： 読書の良いきっかけになっているということか。

委員： 中学生はどうしても電子機器に惹かれ、図書館や本に対しては離れていく生徒が多いため、それを呼び戻すには非常に良い取り組みであると思う。

会長： これは来年もおこなうのか。

事務局： はい。

会長： ほかになければ報告の4点目をお願いする。

事務局： 多摩市読書活動振興計画についての途中経過を報告する。計画の進捗状況については、昨年度の第3回、第4回の図書館協議会定例会でパブリックコメント等の状況も含めて報告させていただいた。その時の意見としては、行動プログラムの前に地域館の在り方も含めて計画を作成すべきいうものもあったが、一方では行動プログラムと振興計画は別の動きをしているので、シンクロは難しいのではないかという意見もあったかと思う。いずれにしても分館の廃止については慎重な検討が必要というのが共通の意見であった。本館の再構築をするにあたっては、振興計画で全体の見取図を示した後に取り組むべきであるという意見もあつ

たが、全体の検討も必要だが読書活動振興計画策定委員会の枠をもう少し広げて議論した方が良いという意見もいただいた。現在は、地域館をあたかも縮小していくような記述については削り、まずは本館再構築の必要性に集中した形に記述を改めて教育委員会で協議しているところ。本館再構築にあたっては、今の本館の場所をただ移すだけでなく、現在の地域館や拠点館の状況を踏まえた上で新たな本館はどうあるべきか、ということも含めて、この基本構想の中で検討していただければと思っている。そのために学識経験のある方、教育関係の方、市民の方を含めた委員構成としている。読書活動振興計画は図書館本館再構築の必要性を強調した形で決定し、それを受けて本館の基本構想では、市全体の図書館ネットワークを含めて検討していければと考えているところ。まだ決定はしておらず、教育委員会で協議をしているところだが、できれば5月中に決定できればと考えている。報告4点目については以上。

会長： 多摩市読書活動振興計画は5月を目途に教育委員会で確定をする方向であるということ。ただ、地域館を縮小するような記述は一切載せず、本館の再構築を中心に計画を確定する方向であるということ。そして地域館の在り方も含めた全域サービスについては、本館再構築基本構想策定委員会で検討していくということだが、質問や意見はあるか。

策定委員会で地域館の在り方も含めた全域サービスについて検討するということだが、図書館協議会としては市民の強い要望もあるため縮小について慎重な検討をお願いしたい。報告事項については以上。

では、本日の議題に入る。議題1「多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会の設置について」事務局より説明をお願いします。

事務局： 資料1-4をご覧ください。本日の獲得目標としては、委員会設置についての説明後、資料1-6で教育長から図書館協議会会長宛に基本構想策定委員会に参画いただくための委員推薦依頼がきているので、一人を推薦・決定するまでをお願いしたい。

では資料1-4に戻り説明させていただく。この資料は4月27日の教育委員会定例会で説明した時の資料の写し。「1経緯」では、現在の本館は旧中学校の校舎に必要最小限の改修を加えて平成20年から概ね10年間の限定暫定活用を行っていることや、学校施設の枠ではサービスの充実・向上は制約があり難しいということ、また読書活動振興計画を現在策定中だが、その中でも本館の再構築が位置付けられているということ等を述べている。また本館の移転について、行動プログラムの中では鶴牧倉庫跡地に施設整備すると書かれていたが、昨年10月に学校法人から本館と学校法人の持つ土地を交換したいという申し出があり、市は不動産鑑定等をして検討してきた。ここで多摩市長から教育委員会へ「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新に向けた図書館本館の施設整備予定地について（協議）」（資料1-5）がきている。10年間の暫定活用の期限が

迫っていることと、用地も具体的になってきているため、基本構想策定委員会を設置し検討していきたい。この策定委員会の設置については5月11日の教育委員会で要綱の決定がされている。

策定委員会の構成等は、学識経験者の方、学校教育、社会教育を含めた教育関係の委員の方、多摩市民の方の10人以内で構成する。任期は委嘱又は任命の日から平成29年3月31日まで。審議のスケジュールは6月下旬から12月までに5回程度の審議を予定している。

次に資料1-6をご覧いただきたい。こちらは先程申し上げた策定委員会の設置を踏まえて、教育長から図書館協議会会長宛に届いた委員の推薦依頼文。添付の資料等については先程説明した内容とほぼ同様のため省略させていただく。本日はこの場で委員を一人決めていただきたい。説明については以上。

会長： 質問などはあるか。

委員： 今の説明のあった1経緯の桜美林アカデミーヒルズとの用地の交換について、私が所属する多摩市文庫連でも話し合ったが、いくつか疑問が残る。

この本館は学校を図書館として使っているが、いずれ子どもたちの数が増え、学校が足りなくなった時にまた学校に戻すという話があった。それはどうなっているのか。それから学校用地はただ教育機関として使うだけでなく、例えば災害があった時あるいは防災の拠点となる余裕のスペースを残しておく必要があるのではないか。また、学校跡地は多摩市民の財産であるのに、それを簡単に民間の学校法人に渡してもよいのか。今回は桜美林からこのような話がきたので急に話が進んでいるように感じるが、もしその話がなければ今後の本館については教育委員会としてどのように考えていたのか。それから利用者の立場としては、雨の日のことや足の不便な方を考えるともっと利用しやすい場所がよいのではないか。噂では多摩センターの京王プラザホテル横の駐車場が市庁舎の建替候補地となっているとのこと。もしそうであるなら図書館もそこに入る方が利便性としてはよいのではないか。教育委員会としてはどのように考えているのか。

会長： 1点目は、この本館の場所は学校に戻すはずではなかったのかということ。2点目は災害等のとき余裕のスペースがなくなるのはどうなのかということ。3点目は多摩市の財産である用地を民間に簡単に移してしまってよいのかという疑問。4点目は、もし桜美林から用地交換の話がなければ、教育委員会としては将来的に本館をどのように考えていたのかということ。5点目はもっと利便性のよい場所があるのではないかとということ。これらについて事務局より説明をお願いします。

事務局： 学校に戻すはずではなかったかということについては、昨年この場でも質問があったと思う。行動プログラムの協議の段階では確かにここは学校に戻す可能性があるかと聞いていたが、現在の状況では廃校を学校に戻さなければならないほど児童生徒が増えることはないため、今はここを学校に戻すことはないと認識し

ている。2点目の災害時については、広い校庭があれば何かあった時には避難する場所として使えるが、広い場所という意味では多摩中央公園もある。また、これは記憶が確かではないが、竜ヶ峰小学校を民間の学校に売却した際に、災害時はそこに避難させてもらえるような協定を結んでいたかと思うので、災害時については交渉の余地があるのではないかと。それから市民の財産を簡単に手放すのかということについては、どのような検討が必要なのか、どのようなやり取りが簡単なのかは価値観を含めて難しいところがある。用地交換することで本館建設の財源が生まれることもあるため、図書館としては暫定活用が終わるというこの時期にこのような話は非常に有難く、多摩市民にとっても新しい本館に生まれ変わる機会を得る事ができるというのは嬉しいことなのではないか。それから教育委員会として、この話がなければ依然として鶴牧倉庫跡地での検討が続いていたのではないかと思う。もし鶴牧倉庫跡地が難しい場合は、この場所を改修しながら使い続ける選択肢もあるのではないかと考えていた。その他の具体的な用地は検討できていなかった。それから、不便な場所に変わりはないのではないかということについては、確かに鶴牧倉庫跡地と比べると駅からは遠いし、公園の中を通るため不便だと思っている。教育委員会の中ではミニバスを走らせることはできないのかという議論もあった。すぐに「走らせます」という回答はできないが、ミニバス等の交通手段や、ある程度の駐車場も整備したいと考えている。また、本館の再整備の前後では、パルテノン多摩や多摩中央公園の改修があるため、その中で歩きやすい道路にする、または階段ではないバリアフリー的なものにする検討も必要。少し遠いのは確かだが、少しでも不便さを解消できればと考えている。最後に京王プラザの横の駐車場が市庁舎になったらということでは、そこになるかどうかは不確定。今の段階では不確定なところをあてにして、それが実現できなかった時は新たな本館を整備する機会を逃してしまうので、今の時点では桜美林アカデミーヒルズとの用地交換という手法が一番よいのではないかと考えている。質問への回答については以上。

会長： ほかに質問や意見はあるか。議題としては委員の推薦なので、立候補も含めて意見を。

委員： 会長にお願いしたいと思っているが、ほかの方はいかがか。

委員： 賛成。(他の委員も了承)

会長： 推薦いただいたので務めさせていただく。少し懸念を持っているのは、構想委員会が5回しか開催されないということ。最後の第5回目で案を確定するのであれば、第4回ではパブリックコメントに出す案を確定することになる。であるならば実質的な議論は3回になると思う。そして、こういう図書館が必要とか、多摩市の図書館全体としてこういうシステムが必要といった自由な議論は、1～2回程度しかできない。時間も3時間なので非常に短期間であると思っている。委員として推薦いただいたので出させていただくが、図書館協議会として意見を言

っていきたいので、皆さんの意見を寄せていただく機会が必要であると考えている。6月25日に顔合わせをしてすぐにそのような議論になると思うので、それまでに意見をいただくか、そのような場を設けさせていただきたい。

ほかになれば、議題2「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムの更新に向けた図書館本館の施設整備予定地に関する市長からの協議について」事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料1-5をご覧ください。4月21日付で市長から教育委員会宛に協議文書が送付されてきた。具体的な内容については、本館施設整備の場所の変更と施設規模についての協議。回答期限は6月末まで。先週の教育委員会で内容の協議をしたが、図書館長から図書館協議会にもこの件についての意見を求めるようにとのことであった。内容については今年1～2月に協議いただいた内容とほぼ同じものであると思うので、この場で議論いただきご意見をいただければと考えている。

教育委員会では市長部局の職員を同席させ議論をしており、その内容を少し紹介させていただく。6,000㎡がどれくらいのものかという質問があり、前回の図書館協議会でも説明した内容を回答した。図書館年鑑で最近10年間に開館した建物のうち、市区立図書館の中央図書館で人口10万～15万人の中で平均的な規模は5,000㎡弱ということを紹介した。また近隣市の中央図書館の面積については、八王子市が5,580㎡、町田市が5,260㎡、日野市が2,220㎡、稲城市が3,185㎡、府中市が6,078㎡、調布市が4,378㎡。また、本館移転の際に一定期間の休館があるのではないかとこの質問があったが、今のところは新たな本館をアカデミーヒルズのプールの跡地に整備して蔵書等に移した後、学校法人に引き渡すというスケジュールを考えているという説明であった。それから、先程も触れたが新たな本館の交通アクセスについて、ミニバスを組み入れてはどうかという質問があった。検討課題であり、ロータリー周辺の道路についても手を入れる必要があるかもしれないし、学校法人の生徒にとっても通いやすくする必要があるのでないかという回答があった。アカデミーヒルズの用地に図書館を建設した時の親和性については、例えばパルテノン多摩と連携できればという議論もあり、鶴牧倉庫よりは駅からのアクセスは遠くなるが文化的な一画ができれば相乗効果的なプラス効果が期待できるという議論もあった。安全面では、現在の本館の3・4階が書庫になっており、強度は問題のないよう分散させているが、やはり震災等を考えると心配であるという声もあるので、移転して1～2階に書庫を設けられれば安心である。市長からの協議文にも鶴牧倉庫は課題が多いと書かれているが、その課題とは何かという質問があった。鶴牧倉庫の跡地はPFI方式で民間が建物を造りそこに図書館が入ることを考えていたが、図書館と一緒にするにはあまり相応しくないゲームセンターなどからの引き合いしかなかった。もう少し文化的なものだと、例えば鶴牧倉庫跡地に12,000㎡のものを民間と一緒に造り、

6,000 m²を図書館が使い、残り 6,000 m²を民間で使えるかという、民間としては 6,000 m²を使い切るのは難しく話がまとまらない状況。マンションを建てたいという話もあるようだが、多摩センター駅周辺では街の賑わいを目指しているため、マンションを建設して児童生徒の通学路の確保などは市として今は考えられないところがある。仮に鶴牧倉庫跡地に図書館を民間施設と一緒にしたとしても、図書館だけを建設した時と同等の財源を必要とする試算になってしまった。一方、アカデミーヒルズの用地と交換した場合、延床面積 6,000 m²の図書館を平米単価 50 万円で建設するとして、備品等は別にして建設費だけで 30 億円程度かかる。用地を交換すると本館の用地の方が広いため、その分のお金で概ね建設費の 1/3 から 1/2 を財源として充てることができるため、非常に現実的な話になってきている。行政側の事情もあるが利用する市民の意見も聞いて進めて欲しいという意見もあった。鶴牧倉庫跡地では 3～4 階の設計になりそうだが、アカデミーヒルズの用地では 6,000 m²の敷地があり、1～2 階である程度ゆったりとした面積がとれるため、読書活動振興にも直結するのではないかという意見もあった。先週の教育委員会での議論については以上。

この場で意見をいただきたいが、意見書は図書館長宛で、内容は用地を多摩アカデミーヒルズの一部に変更することについてどうかということと、施設の整備規模について 6,000 m²程度でどうかの 2 点。今後は、6 月の教育委員会でいただいた意見を報告して協議し、教育委員会から市長へ回答する予定。説明は以上。

会長： 前回の図書館協議会では、新たな本館は多摩センター駅周辺に整備すると決めたとと思うが、それとの関連はどうか。

事務局： その時には桜美林からの申し出があり、それも含めて市長部局で検討している段階で、鶴牧倉庫跡地ではないところでもよいのかということでご意見を伺った。今回は具体的にこの場所でという協議が来たということ。議論が繰り返になり申し訳ない。

会長： この依頼書を見ると行動プログラムの更新と書かれているが、アカデミーヒルズに決まった場合は、別紙の図書館本館の「鶴牧倉庫」が「アカデミーヒルズ」に変わるということか。

事務局： 今年度、行動プログラムの更新作業を予定しており作業しているところ。この協議に回答し、アカデミーヒルズの用地の一部でよいということになれば、別紙の中味が変更されていくことになる。

会長： アカデミーヒルズでよいかということと施設整備規模は 6,000 m²でよいかということについて。施設整備規模については前回も議論し、最終的には 6,000 m²を図書館協議会の意見として出していたと思う。今まで図書館協議会として議論してきたことと整合性のある協議内容であるが、意見や質問があれば何う。

委員： 質問だが、6,000 m²は図書館だけで使用するのか、他に何かが入るのか。

事務局： 現在の本館が図書館として使用しているのは 5,500 m²弱。図書館としても今の

本館をただ引っ越すだけではなく、連携することで良くなることもあると思う。コーヒーショップを設けるということではなく、文化教育の見地で、例えばパルテノン多摩の展示と合わせて図書館でもミニ展示と本の紹介をして連携していくことも考えられる。また、市民が集うことでより文化的・教育的な効果がある、ここではできなかったことができるような図書館が今後は求められるかもしれない。これらは基本構想の中で議論されることだが、例えば市教育委員会の文化財などと、今もミニ展示で尾根幹線を展示しているが、このような連携できるスペースも設けられるのではないかと考えている。民間と分け合うことは考えていないが、文化的・教育的なところで何か連携できればよいと考えている。

会長： 基本的に6,000㎡は図書館だけだが、連携ということで何かできるかもしれないということ。

副会長： 建物が30億円とのことだが、延床面積6,000㎡の建物の建設費と捉えてよいのか。

事務局： 計画設計までいかないかわからないが、一般的に図書館の建物はある程度の荷重が必要で平米単価50万円程度といわれている。それを6,000㎡で掛けたものが30億円。もちろん建物だけでなく書架など備品が必要になるが、今のところ議会などの質問では30～40億といわれている。これはまだ計画や設計に基づくものではない。

副会長： 敷地面積も6,000㎡か。

事務局： そうだ。

副会長： 何階まで建てられるのか。もし可能ならもう少し大きな建物を造り、図書館の6,000㎡のほかに別の機能を盛込むことは考えていないのか。

事務局： まだそこまでは考えていない。建蔽率は60%、容積率は300%という場所。例えば1～2階を図書館で6,000㎡とし、3階に民間の施設を入れるようなことはまだ考えていない。

副会長： 民間だけでなく、市の他の機能を入れて複合的にすると市民の利用価値が上がると思う。民間の施設だとどのような施設かによるが、武蔵野プレイスのように複合的にすると利用者がとても多い。鶴牧倉庫跡地ではまちづくりの親和性が無いとのことだが、図書館だけでなく市民が利用できる行政の機能を複合的に持ってくれば利用価値が上がるのではないか。これからの基本構想で議論すると思うが、そのような考えはないのか。

事務局： 行動プログラムの話の基になるものが、施設の総量を抑えていかなければ今後維持できないというもの。図書館を今と同程度の6,000㎡ということはあるとしても、他の公共施設を膨らませる発想は今のところないと思う。

副会長： 自分としては以前にも資料を出しているが、最大延床面積は6,000㎡としても、できれば色々工夫して他の行政の機能を盛込む可能性はあると思っている。基本構想の中で考えていただけるとよいが、図書館をパルテノン多摩と中央公園と一

体的なものにすれば市民の利用価値が上がる。同じ投資をしても効果のあるものになるのではないか。

会長： 行動プログラムの図書館本館を見ると「民間施設との複合化等の公民連携による手法を検討します」とあるが、これはこのまま残るのか。

事務局： 鶴牧倉庫跡地の場合の民間施設との複合化というのは、多摩市の土地に、例えば 12,000 m²の建物全体を民間が造り半分ずつ使うという連携を考えていた。まだ方針として固まっていないが、今回は民間施設との連携の案は出ていない。P F I という形で施設の建設と維持をP F I 化することによりメリットがあるのであれば選択肢としてはある。ただ図書館業務の運営を民間に任せるということはなく、あくまでも基本は直営。

会長： 建物はP F I で造り、あとは直営でということ。
ほかになれば議題を確定していきたい。整備予定地をアカデミーヒルズ用地の一部に変更すること、施設整備規模は 6,000 m²とすることでよいか。(異議なし)では、そのように回答する。

委員： 今後設計していくにあたり、敷地を十分に使えるのであれば図書館のほかに図書館に合う民間を入れてもいいのではないかと。費用的にもプラスになってくるので考えに入れていただきたい。

会長： 委員としては、少し大きい建物を造り、民間を入れていくという意見。

委員： これからP R していけば、図書館に相応しい民間企業が手を挙げる可能性がある。コスト面でもプラスとなり、より充実した図書館ができるのではないかと。

会長： 議題2については、先程の2点について私から文書で回答する。
本日の議題・報告は以上。ほかになればワーキンググループの活動を報告したい。(ワーキンググループ活動報告)

何か質問や意見はあるか。なければ本日の予定はすべて終了。これで平成 28 年度多摩市図書館協議会第 1 回定例会を終了する。